ここは富水　すどう美術館の新しい活動の場
こんこんと水が湧くようにアートも汲めども尽きない希望が湧いてくる
水はわたしたちになくてはならないもの　「AQUA」が誕生する

AQUA

NO.41
'15 APR

2015年4月発行41号　すどう美術館
〒250-0853 神奈川県小田原市堀之内373
TEL.0465-36-0740　FAX.0465-36-0739
info@sudoh-art.com
http://www.sudoh-art.com

『大磯アートハウス』オープンに寄せて

湘南アートベース（代表）朝比奈賢

すどう美術館と出会って１３年目になります。館長・副館長は２５年前に自宅を開いて以来、収集した美術作品を公開するだけでなく、様々な作家に発表の機会を提供し、社会活動を続けられてきました。いつもプロジェクトをご一緒させていただいて、お世話になってばかりでしたが、それだけではいけない、自分から行動を起こさなくては、と企画したのが昨年の『小田原アートホテル』でした。今年も、その延長上で新しいアイデアが生まれています。須藤夫妻の活動をみならって、自宅とアトリエを開放する『大磯アートハウス』構想です。

みなさんにとって、楽しい！わくわくする！それはどんな時ですか？そのような時を思い起こしてみると、何らかの「表現」につながっているように思います。私のすまいには自作だけではなく、気にいった作家さんの作品も集めて飾るように心がけています。また、アンティークなども雰囲気を出すのにかかせません。古いものだけだと暗い感じがしてしまいますが、うまく現代美術作品が中和しておたがいに引き立て合い風格がでます。

傍から見たときに、この環境があたかも自然に作品を産み落としてくれるように見える内的動機づけを行っています。別の言い方をすると、誰もがこのすまいに足を踏み入れたときに、何かを「表現」してみたくなるスイッチの役割を果たしてくれればいいな、と考えています。

「表現」とは、心の内にあるものを、感じとられるようなかたちにして表に現すことです。うまい・へたは関係なく「きもちよい」「ここちよい」と感じ、その体験をたくさん重ねることが、「生きるよろこび」につながると信じています。

『大磯アートハウス』では、来場者にご希望でミニワークショップをおこないます。この場所で、心に思い描いたことを自由に「表現」し、自分なりに描いたそれらの作品を自宅へ持ち帰って飾っていただこうと考えています。お茶を飲みながらゆったりと時間を過ごしていただけたら嬉しいです。お気軽にお越しください、お待ちしております！

（毎週金・土・日、１１:００～１８:００、入場おとな￥５００、こども￥３００〈ミニワークショップ、ドリンク付き、こども料金は東日本げんきアートプロジェクトの活動資金になります〉詳細はチラシ、もしくは検索【大磯アートハウス】）

現代美術の展望（VOCA 展）

すどう美術館 館長　須藤一郎

3月13日、上野の森美術館で開催された第22回VOCA展のシンポジウムとレセプションに出席してきました。

VOCA展は私がかつて勤務していた第一生命の協賛で行われている展覧会で、毎年選考委員が決められ、その委員が推薦する40歳までの作家の作品が展示されるという、ユニークな方法が取られています。

絵画の登龍門であった安井賞展がなくなった今、それに代わる展覧会として評価されるようになっています。

当日のシンポジウムでは運営委員会の委員であり、また、受賞作品の選考委員でもある高階秀爾さん他5人が登壇し、受賞した作品の選考経過や平面と絵画との関係、現代美術の範囲などについてそれぞれの思いが伝えられました。

一騎当千の委員たちなので、丁々発止のやり取りが面白かったのですが、22年関わっている委員と新しい女性2人の委員の主張の差も感じられました。

今年の特徴は写真の出展者が多数出てきて、受賞者も2人いたということです。欧米のアートフェアではもうずい分前から写真の作品が普通に出品されており、日本でも漸く認知されてきたということでしょうか。

私は具象、抽象の区別でもなく、「現代の生活空間に合う絵をもって現代美術という」と勝手に定義していますが、写真もあるいは動画もそれに相応しい作品は現代美術の範疇に入れていいのだと思います。

なお、大賞のVOCA賞は珍しく版画作品でした。これも時代の流れかもしれません。

さて、その前後に、国立新美術館で行なわれている「ルーヴル美術館展」を見てきました。現代美術を中心に活動している私ですが、その昔、ルーヴル美術館を訪れたことが懐かしく、また再会できる絵もあるかと思ったからです。

幸い混雑はそれほどではなく、ゆっくり見ることができました。

そして、今の作家では描けない美しく重厚なマチエールにあらためて感慨を覚えると同時に、絵の背後に見られるその時代、時代の日常生活や風俗の歴史が興味深く感じられました。

現代美術とヨーロッパ美術の真髄、対象的な展覧会をふたつ体験できたのは幸せなことでした。

点描　こんな話でよかったら (28)

仙仁司

戦後社会は長生きを１つの目標としてきたように思う。毎月届く北陸地方のある広報紙の弔意欄を拝見すると80才以上が当たり前で百才前後の方も稀れではない。最早、誰もが長生きする時代に入っていることを理解し、人生設計を描く必要があるのでは。現状では働く世代までが中心で晩年は付け足しのような感があり、何処か肩身が狭く、仕方なく生きている人も多い、身辺の整理を始めたり。そんな生き方や遠慮は全く無用なのだ。幼少期から育んできた諸々の体験も知識も見聞も、晩年まできちんと続いていて切り目はどこにもない。これまでは働くことを美徳として壮年期までの人生を重用してきた。まるで姥捨山の話のようなもので多くの人々がその意識に飲み込まれて来てしまっただけなのだ。

最近やたらと女性の能力活用が叫ばれているが、老人の能力もきちんと社会の中に構造化して居場所を作り出していくのが急務でもある。現実のままでは、若い人々にとって老人社会は何ら魅力ないものでゴールが見えない。あんな年のとり方が素敵滅法と言われるよりもあんな祖父さん祖母さんになりたくないと思われる方々がやたら目につくのは小生だけか？

黙っていても長生き時代、生き切るエネルギーは芸術、文学、詩歌、芝居、パフォーマンスと接しその中に多くの友人を見つけること。そしてまた現実社会のなかにこそ発想の源があることを強調したい。凄いという老年は身辺に目を向け続けること、そんなところにあるものかもしれない。

楽しいネ～、いや、おめでたいかもしれない。

白いノート　19

ふみだす

春、桜の季節を迎えた。4月は心機一転し何かを始めたくなる。毎年、新しい英会話番組をひとつ決めて見始める。英語は好きなのだが、会話の機会は普段ほとんどなく、たいして上達しないまま、恐ろしいことに10年も経ってしまった。そもそも日本語でしゃべることもあまり得意ではないので「向いてないのかも・・・」と気づいたのが何年前だっただろうか。

ずいぶん前になるが、英会話の悩みをある人に話した時に、「あなたが学ぶべきは、会話のノウハウではないような気がする」と言われたことがあった。その時はよく意味がわからなかったが、その後日本で海外の作家を案内していた時に、大事なのはコミュニケーションをとろうとする姿勢なのだと思いあたった。自分の伝えたいことを、心を開いて、たとえ短い言葉でも発していくことがお互いの壁をなくし、言葉以上に気持ちが伝わることを感じたのだった。

英語でも日本語でも、コミュニケーションをとり相手を理解しようとすることは、時に難しいが、大切なことだと思う。そしてお互いにわかりあえた時は嬉しく、また楽しい。英語も地道に聞き続けながら、今年はもう一歩先へふみだしてみたい。

髙橋玉恵

絵を描く自分がすべき仕事

金子　牧

「絵を描く人」になろうと思っていたにもかかわらず、美術教室の仕事を始め、‘子どもの美術’に夢中になり、負い目を感じながらも、教師業を優先した数年がありました。

子どもの絵の、今しか描けない懸命で無垢な表現、そこで発散されるエネルギーに魅かれ、子どもが絵を描く事の真の意味を知り、美術をきちんと伝えられる教師になりたいと真剣に思っていました。

子どもの多くは、絵を視覚的に描いていません。太陽をあの赤いニコニコ顔で描く、あれが象徴的です。「絵本やイラストでよくみられるから」それも大いにあるのでしょうが、どこかで見たその太陽をストンと心に落とし、当たり前のように描きます。テクニックや見栄えではなく、無意識で表れる「心の声」である事に、尊さを感じていました。

「すっかり先生だね」といわれる事に少し満足する半面、絵を描く時間がない事への焦りと不安を、押し隠せなくなってきたのが、５年程前です。「若き画家たちからのメッセージ展」を知り、はっきりしたコンセプトも見つけられないまま、すどう美術館の館長との面接を受けました。館長から絵は画家の内面的なものが大切だ、というお話をうけ、「絵を描く行為」に対して自分が大切に思っている事が明確になったのを覚えています。

その後、すどう美術館での個展　スペインへのレジデンス、東日本げんきアート　等など。すどう美術館の活動に多くかかわらせていただき、沢山の学びを頂きました。「美術教室の先生」と「絵を描く自分」を繋いでくれたのは、すどう美術館でした。「絵を描く自分」がすべき仕事として、「美術教育」を行なっている事を大切に思えるようになりました。

子どもの絵の素晴らしさは、ありのままの表現である事。そしてまた、館長の選ぶ絵も、表面の美しさやうまさではなくその奥の画家の内面的なものがしっかりしていて　それがこちらに伝わってくるもの（いちろー語録より）。

すどう美術館に魅かれ集まる人たち、作品。そこにあるのは、子どもが美術を大好きなのと同じ「自分である事を大切にする価値観」のように感じます。「絵を描く自分がすべき仕事」を一途に行なっていきたいと思います。

丹沢アートフェスティバル参加

みて・あそんで・つくる展
5月1日(金)～10日（日）
11：00～18：00（最終日～16：00）

日本おもちゃ会議が主催し、小田原市とすどう美術館が共催して開催する展覧会です。
子どもも大人も笑顔になる創作おもちゃの作品展示と、おもちゃ作家自身によるワークショップを開催します。

丹沢アートフェスティバル参加

春の沈黙　竹橋啓一 × 加藤肇司
5月12日(火)～24日（日）月曜休館
11：00～18：00（最終日～17：00）

作家の言葉
「自分」という枠の外に出たいと思う。しかし、それは言うほど易しくはなかった。というより、そんな勇気は僕にはない。
そこで、画面二等分割して半分だけ、二分の一の冒険を試みた。加藤肇司

素描、設計図、地図、壁のシミ等、好きなモノです。焼きモノの染付が好きなので、みえるモノを青色で素描のように描いてみました。
暇つぶしのような絵ですが束の間でも目の憩いになれば幸いです。竹橋啓一

展覧会 info

続々　世界一小さい美術館ものがたり

おもてなし

東京でのオリンピック、パラリンピックの開催が決まる前のスピーチでクリステル滝川さんが「おもてなし」の心を訴えたのが多くの人の印象に残っている。おもてなしとはやさしい心と気配りで人を迎えることであろう。最近、こんな経験をした。

久しぶりに箱根小涌谷にある日本的な温泉旅館に行ってきた。個人的な話になるが、私たち夫婦と長男のお嫁さんの両親がともにこの春結婚５０周年で、それを長男夫婦がお祝いするため、招待してくれたものである。

もてなしは、３時チェックインの前に旅館に着くと、館内の喫茶フロアーに案内され、無料でコーヒー等をサービスしてくれることから始まった。

当たり前といえば当たり前のことかもしれないが、旅館もその従業員もお客さん本位の姿勢で貫かれていてとてもいい感じだったのである。

結婚記念とわかると受付で両親４人それぞれに銘木で作られた箸がプレゼントされた。

大きな温泉に入り、出てくると休むところがあって、そこには乳酸菌飲料とアイスキャンディが置いてある。豪華な夕食ではお酒を含めワンドリンクのサービスもあった。

圧巻は夜１０時３０分からの「夜鳴きラーメン」の提供である。食べたいわけでもなかったが１階の食堂に様子を見に行ってみるとたくさんの人が来ていて喜んでいる。気が利いているなと思ったのはラーメンの他にコップ一杯ではあったが生ビールも出されていたことである。

食べ物、飲み物の話になってしまったが、６人全員で気持ちよく過ごすことのできた一夜であった。

中国、韓国からの観光客も多く、まさに日本のおもてなしを満喫したのではなかろうか。

ホテルの利用が多くなっていてわからなかったが、今時の温泉宿はこんなサービスをするところが増えているのであろうか。

ところで、宿泊代はどのくらいだったのだろう。子どもたちの招待なので、それは聞いてない。

須藤一郎

山茱萸は雨音色を手繰る
春の蔵いて女は
晴まつこの色を引つ提げ春が来た
寒の蔵いの黄水トンとゆらすが
霧り和顔　姫代　哲志

編集後記

ちょうど一年前くも膜下出血その他で倒れ、まだ療養中です。

でも、季節は確実に春になっています。

春キャベツ、新じゃが、ふきのとう、竹の子などが、スーパーの売り場に並び始めました。そろそろ料理をしてみようかしらとようやくそんな気持ちになって、これらの食材を買ってきました。

竹の子の煮物、肉じゃが、春キャベツのサラダ、ふきのとうの天ぷら、やはり自分で作った料理はおいしい。

何を作ろうかなと考えているだけで幸せです。

須藤紀子

すどう美術館友の会

AQUA クラブ入会のご案内

入会随時

年会費

一般会員	3,000 円	
特別会員	10,000 円	
法人会員	50,000 円	入会随時

納入方法　ご来館時または郵便振込みでお願いします
・郵便振込み　No.00270-7-97439
・加入者名　すどう美術館友の会　「AQUA クラブ」